

# 2年生修学旅行

## 修学旅行感想文

2年4組20番 楠生 美雨

昨年12月6日、2年生は修学旅行に出発した。9日までの3泊4日の日程であった。一行は初日に福島県へと向かい、東日本大震災・原子力災害伝承館を見学、二日目はスキー研修を行い、三日目に横浜の八景島シーパラダイスへ、そして最終日には中華街・浅草周辺を自由散策した後、鹿児島へと帰着した。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で行き先が県内へと変更になってしまった。しかし、今年は感染症対策をとったうえで、関東・福島方面へ行くことができた。以下にはコロナ禍の修学旅行について生徒の感想を代表で一名掲載する。

(左写真)スキー場で班ごとにわかれ、インストラクターから安全面の注意を受ける南高校生。この後それぞれの班についてインストラクターから滑り方を学んだ。



修学旅行が始まる前からワクワクしていた気持ちは修学旅行が始まってからも留まることを知らず、長い移動の時間でさえも楽しいお

もいどとなりました。一日目では福島で被災地見学をし、私たちが震災について学ぶ意味を再認識しました。特に請戸小学校での見学は胸を締め付けられるものが多く、行って良かったと思えました。二日目のスキー研修は本当に思い出に残っています。南国生まれの私たちは雪をみるだけで興奮し、「ちゃんと滑れるようになるのかなあ」という心配をよそにみるみる上達していきました。壮大な雪景色では濃霧さえも美しく、普段出来ない経験ができて有意義なものとなりました。三日目の八景島シーパラダイスでは、ジェットコースターに乗って叫んで、イルカショーを見て癒され、友達と写真を撮り、暗くなるまで満喫することができました。とても「青春」していたと思います。四日目の各地観光では、ずっと行ってみたかった横浜中華街に行くことができるとても嬉しかったです。店員さんが中国の方で異国の風を感じ、普段味わうことができないものを体でも舌でも感じることもできました。また、浅草・ソラマチでも地下鉄に乗って移動したり、自分の欲しいものをたくさん買い物できてうれしかったです。ずっとバス移動の時遠くから見えていたスカイツリーを間近で見ると迫力がすごく、最初に見た時のあの感動は忘れません。

また、四日間二つのホテルにお世話になりました。どちらもどこを切りとっても素敵なお出しかなく、ごはん、客室共に最高でした。福島で窓から見た雪景色も、横浜で見たまぶしいほど輝いていた夜景もすべて鮮明に覚えています。このホテルに泊まれてよかったと心から思います。何度思い出しても涙が出てくるほど楽しかった修学旅行となりました。私はこのプランの修学旅行で本当に良かったと思っています。すべての記憶がまだ脳裏に色濃く残っています。そんな「最高の修学旅行を企画して下さった日本旅行の方、コロナ禍のなか、関東方面に行くことを決めて下さった先生方に大きな感謝をしたいです。本当にありがとうございます。きつとまた思い出を振り返って、かけがえない記憶にまた涙してしまいかもしれません。それぐらい「人生最大級」の修学旅行にしてくださいありがとうございます。

今年度も修学旅行はかけがえない思い出になったよう。

# 「五輪碑」完成！！



このたび新たに本校正門横に「五輪碑」が設置された(上写真)。ここには、昨年凱旋した濱田尚里選手を始め本校出身のオリンピック出場選手の名が刻まれている。

名前の横には獲得したメダルの色や個数、大会開催年、種目なども記録されている。2月28日に除幕式が行われる。今はこの石碑の下半分が空白になっている。ここに新たに名を刻むオリンピックが誕生することを期待したい。

## 編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。新聞部は、現在2年生1人で活動しています。一人で「海岸線」という時事通信と「論説」を書き、なんとか作り上げることができました。次回からは計画的に生徒にとって興味心のある特集記事を作っていきたいと思っております。読んでいただけたら幸いです。また、新聞部では新入部員を大募集しています。取材から専門的なソフトを使っている印刷作業までの全ての工程を経験して楽しく作成しているの、興味がある方は是非一緒に鹿南タイムズに新しい風を吹かせてみませんか？

(2-1 渡邊聖太)

# 論説 「世界の食糧問題 解決のために私たちに出来ることは何か」

「近年、世界では食料が不足し始めている。」と言っても、日本に住んでいればそう感じる事は限りなく少ないだろう。事実、日本では全体の約38%が国内で生産され、62%が外国から輸入されている。更に、今日ではわざわざ専門店に行かなくてもスーパーやコンビニで新鮮な食糧を手に入れられる環境の下にある。これは日本の豊かさを象徴し、誰しもがその恩恵を受けていると言える。しかし、それが私たちが世界の食糧問題についての思考を妨げる大きな要因となっているのである。

先程、「世界では食料が不足し始めている。」と書いたが、これは正しくもあり間違いでもある。「世界食料デー」を呼びかける団体によると、世界の穀物生産量は毎年26億トン以上あり、食料は十分にあると言える。しかし、高くて買えないことや輸送面に問題があることで、世界の人々に食べ物が行き渡っていないのが現状だ。さらには天候不良によりフードロスが重なり、かつて無いほどの食糧危機に直面しているのだ。これは、寒冷化や砂漠化により生産率が減り、「農家の「稼ぐ力」が低下する」 + 「フードロスの増加で地球温暖化が進む」

「更に環境悪化が促進されて生産率が減少する。」この様な事態に発展しているのである。では、どうすればこの危機的状況を打開出来るのか。その答えを明確に述べるにはいくつもの困難がある。なぜなら、地球温暖化を止めて気候や土壌を回復させる事、世界中の人々から好き嫌いという感情を喪失させフードロスを減らす事など、極めて達成するには非常に困難な道なのであるからだ。

もう私達に残された術は無いのだろうか？いや、そんな事はない。私達はとても強大な力を持っている。それは「団結力」である。消費者の一人が「意識を変えてみる。」と、それが連鎖的に波及していつしか地域を、日本を、もしかすると世界を動かす素材になる可能性を誰しもが秘めていると思っている。その例として、フェアトレード(発展途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易の仕組み)の商品を選ぶことや嫌いな食べ物に挑戦してみたりすることでフードロスを減らしたり、身近な食糧問題について(野菜の値上がりや輸入品の増加など)少し興味を向けるだけでもまた違った世界が見えてくるかも知れない。実際、私も世界的な食糧難が起こる可能性が高い事など知る由もなかった。しかし、ファストフード店でポテトサイスの制限が実施されたというニュースを見て初めて危機に直面していることを悟ったのである。

最後に、世界には私たちが知らない問題が世界中に数多く存在している。しかし、それは身近なものとならない限り危機感を覚えない。今回、そのことについて深く感じさせられた。同時にこれからの世界の運命を左右するのは私たちであり、より多角的な視点から判断する力が必要な事にも気付かされた。地球は起きている、私達がどのような決断をするのかを。